

II 事業の概要

2021年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりです。

1 重点施策の推進

(1) 第2期中期計画の実施～長期ビジョンの実現に向けて

本学は、「学校法人明治大学長期ビジョン」の具体化に向けて、「第2期中期計画」(2018～2021年度)を実行し、2021年度は、第2期中期計画の4年間にわたる計画の最終年度として、単年度の中期プランを踏まえた予算の策定、部門目標への反映を行いました。

中期計画の進捗・達成状況については、以下のリンクからご覧ください。

※https://www.meiji.ac.jp/chousaka/middleterm_plan_ver1.html

(2) 長期ビジョン・第3期中期計画の策定～150周年に向けて

2031年、本学は創立150周年を迎えます。

これまで推進してきた「学校法人明治大学長期ビジョン」をさらに発展的に展開していくため、2019年に発表した「明治大学グランドデザイン2030」に基づき、「MEIJI VISION 150—前へ—」を策定し、10年後の明治大学のあるべき姿をビジョンとして位置付けるとともに、具体化に向けてその方針を定めました。

この「MEIJI VISION 150—前へ—」の下に策定する第3期中期計画、事業計画を実行することで、その実現に向けて「前へ」邁進します。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/mejivision150/>

(3) 創立140周年記念式典の開催

創立140周年を記念して、本学の創立記念日である11月1日に駿河台キャンパス アカデミーホールにて創立140周年記念式典を挙行了しました。

式典では、次期長期ビジョン「MEIJI VISION 150—前へ—」の発表が行われ、「明大アイデンティティ 我等に燃ゆる希望あり～校歌誕生100年記念プロジェクトとのコラボレーション企画」として、本学校友でハーモニカ奏者の寺澤ひろみ氏による明治大学校歌の演奏や、『明治大学校歌』誕生物語りと題する明治大学校歌の誕生秘話に関するアニメーション映像

と混声合唱団による校歌合唱動画などが放映されました。



※<https://www.meiji.ac.jp/140th/>

(4) 創立140周年記念事業の実施

2020年度に引き続き、明治大学創立140周年記念事業コンセプト、「前へ—『個』を磨き、ともに持続可能な社会を創る—」に基づき、各種記念事業を実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/140th/project/>

(5) 教育研究施設設備計画の推進～和泉キャンパス新教育棟「和泉ラーニングスクエア」竣工

和泉キャンパスにおける教室数の不足や教育施設の老朽化、さらには社会の激しい変化に対応し、総合的な知の基盤である「教養教育」を展開する『場』の創出に向け、「和泉ラーニングスクエア」を竣工しました。(詳細は「10 教育研究環境の整備」を参照。)

※https://www.meiji.ac.jp/140th/izumi_ls/

(6) 戦略的広報活動の展開～ブランド力を高める広報の推進

広報戦略本部を中心に、教育研究活動及びこれに付随する諸活動に関する情報等を広く学内外に発信するための広報戦略基本方針を策定するとともに、それに基づく最重点項目を設定し、本学のブランドを高める広報活動を推進しました。「明治大学広報」、広報誌「明治」等の紙媒体のほか、ホームページ、SNS等各種媒体を通じた情報発信、メディア・記者に対するプレスリリース等により、“旬(しゅん)”な明治大学の情

報を学内外に発信しました。

① 「和泉ラーニングスクエア」を広く全国にPRするための広告施策の実施をオープン

和泉キャンパスの新教育棟「和泉ラーニングスクエア」と「それによる明治大学の新しい教育の形」を発信すべく、2022年1月16日に全国主要5紙に新聞広告を掲出しました。また、紙面広告と連動した特設Webページを制作し、そこではカラーイラストや写真を使ってさらに詳しく施設の特長を紹介することとし、広く全国に本学のステータス・取り組みをPRしました。



② SNSを活用した情報発信の強化

2021年5月に「広報課 Twitter」の運用を開始しました。広報課目線で各広報媒体の編集の裏側や広報課主催のイベントの様態などを発信することとし、全国の校友、地方在住のご父母のほか、SNS世代の学生や全国の明治大学ファンなどに楽しんでもらえる内容となっています。2022年3月時点でフォロワー約900人となっています。

また、2019年5月から開設している公式Instagramは、イベントの舞台裏、学生の活躍、学内イベントの告知などを中心に週2～3回のペースで更新し、2022年3月時点でフォロワー約8,300人となっています。今後、特に高校生・受験生層のフォロワー数を増やしていくための新規施策としてショート動画の制作・公開も継続して実施しています。

③ 研究ブランド力の向上を目的とした動画コンテン

ツの拡充

本学教員の研究を分かりやすく国内外に発信するため、昨年度から制作・公開を始めた研究紹介アニメーション動画『Expand the World - Researches by Meiji University』を2021年度も新たに10本制作し、Meiji.net(メイジネット)で公開しました。

また、Meiji.net 英語版サイトでも研究紹介アニメーション動画を発信したほか、英語版大学ホームページでも、Incredible Senseis at Meiji University(本学が世界に誇る研究を紹介する研究動画シリーズ)の新規制作・公開を行い、海外に向けても動画コンテンツを通じて本学教員の研究力を積極的に発信しました。

(7) オール明治で前へ ～ステークホルダー(校友会・父母会)との連携

① 校友会との連携

おかえりなさい！母校へ！～第24回ホームカミングデー開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止及び来場者の安全確保を第一に考え、駿河台キャンパスでの開催はせず、オンライン形式にて開催しました。

特設サイト及びYouTubeを利用し、記念式典や創立140周年を記念した講演会、マンドリン倶楽部コンサートなど様々な企画を生配信し、好きな時間に好きな企画を何度でも楽しめる内容となっています。

② 父母会との連携

ア 父母会総会・父母懇談会

父母会総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン会議又は文書会議で開催しました。父母懇談会は、「明治大学の「今」を知る父母による父母のためのオンラインイベント」と称して、6月に計2回オンラインで開催しました。学長による大学の近況報告後、就職キャリア支援、留学支援等に関して大学担当者から説明が行われ、約1,600人が参加しました。

イ 父母対象の就職懇談会

首都圏11地区の父母会は連合父母会と共催で、学部3年生の父母を対象とした就職講演会を10月にオンラインで開催し、約750人の父母

が参加しました。就職に対する父母の理解，子供への支援の在り方を考えてもらうことを目的に，1989年から続けられています。

(8) ステークホルダーをはじめ，皆様からの熱いご支援～募金活動の展開

① 寄付の実績

2021年度に本学が受けた寄付受け入れ実績は，6,656件・7億5,026万2,092円(前年度比81.2%，コロナ禍前2019年度比で99.0%)でした。寄付金の主な内容については次のとおりです。

ア 明治大学創立140周年記念事業募金

2021年度における創立140周年記念事業募金は，1,216件・2億4,661万円の寄付を賜りました。駆け込みで寄付をされる方も多く，2019年4月から募集を開始したこの募金の累計は，目標金額の8億円を超えることができました。

寄附の顕彰として，2022年9月を目途に寄付者銘板と，大教室兼ホールの座席に個人芳名プレートを設置し，さらに寄付金額により各教室の出入り口横にも教室顕彰プレート設置します。

イ 未来サポーター募金

奨学，国際化，研究，スポーツ及びキャンパス整備の5つの資金(使途)から構成される募金制度です。主な募集対象者は校友，教職員，一般篤志家の個人・団体・法人で，寄付金の用途を寄付者自身が上記5つの中から選択することができるのが特徴です。

2021年度は，3,505件・1億5,765万2,776円(前年度比124.4%)の寄付を賜りました。7月には各資金における前年度の活用結果をまとめた「活動報告書」を寄付者の方へお送りし，寄付金の活用結果を報告しました。

なお，新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い2021年度の「ホームカミングデー」がオンライン形式での開催となったため，同イベントでの寄付受付を実施しませんでした。

そのほか，寄付に関する情報や寄付者芳名等を掲載した「明治大学広報秋増刊号」を9月に，「明治大学広報新春増刊号」を1月に発行

し，全国の校友へ向けて送付しました。

ウ 教育振興協力資金

この資金は本学で最も歴史がある募金種別で，教育・研究の充実と発展に必要な経費として，主に学部生，大学院生，専門職大学院生の父母(一部本人も含む)と明治高等学校・中学校の父母を対象に募集しています。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴う経済状況を考慮し，上半期の募集を中止しましたが，社会状況を鑑みて12月に募集を再開しました。3ヶ月間の募集にもかかわらず，多くの賛同をいただき430件・7,591万2,192円の支援をいただきました。

エ その他の寄付金

2021年度は，1,505件・2億7,008万2,824円(前年度比45.5%)の寄付を賜りました。

大きく減っているのは「学生・教育活動緊急支援資金」を前年度に設定し，4億2,134万円の支援をいただきましたが，2021年度は5,445万円だったことによります。

他の寄付金では，高額寄付者より5,000万円の法曹振興資金，2,000万円の博物館活動資金の寄付があり，学術研究奨励寄付金には約5,058万円，校友会奨学金に2,460万円などが挙げられます。

② 寄付者顕彰制度

本制度は，本法人に対する寄付金の総額に応じた顕彰を行うべく，2015年度に制定されました。2021年度は，創立140周年記念事業募金の最終年度で駆け込み需要が見受けられました。また，「賛助員制度」と「個人寄付累計金額」についてお知らせするキャンペーンを行った結果，多くの反響があり，紫紺賛助員が11名(昨年比+6名)，暁鐘賛助員が9名(昨年比+1名)，白雲賛助員が91名(昨年比+31名)と多数の賛助員が誕生しました。なお，毎年実施している「高額寄付者称号授与式及び寄付者交流会」，「寄付者アドバイザーボード」については，新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました。

※<https://www.meiji.ac.jp/bokin/index.html>

2 教学改革と教学運営体制の確立

(1) 教員組織の編制

本学の「教員任用計画の基本方針」において、教員組織の編成方針として、「各学部・研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施等の各種方針を実現するとともに、多様な研究、国際連携及び社会貢献活動を展開するため、ダイバーシティや男女共同参画推進の基本理念を踏まえ、男女比、年齢及び外国人教員の構成にも配慮した教員組織を整備する。」と示しています。このことに基づき、2021年度も任用計画の立案及び採用を行いました。

(2) 教育開発・支援センターの取り組み

本学の教育理念などへの理解を促し、自己啓発意識を高めることなどを目的に、2020年9月以降に採用された教員を対象とし「新任教員研修」を開催しました。教学運営体制、研究支援体制の紹介に加え、図書館や教育学習システム「Oh-o!Meiji システム」の利用方法、入学試験の概要などについて説明を行うとともに、人権講演会も開催されました。

(3) 内部質保証とIR(Institutional Research)環境の整備・推進

① 自己点検・評価

2021年度自己点検・評価(2020年度報告書)は、自己点検・評価全学委員会委員長である学長から評価委員会委員長である理事長に11月に提出されました。これを受け、学外有識者等も加わる評価委

員会を1月に開催し、本学における内部質保証システムの有効性や学修成果の可視化の適切性などを議論しました。その評価結果も併せて、報告書として本学ホームページに公開しています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/>

② 大学評価(認証評価)

本学は2020年11月に公益財団法人大学基準協会に大学評価を申請し、書面での評価、実地調査を終え、2022年3月に「大学評価結果」を受領しました。判定結果は、「大学基準に適合」であり、これをもって学校教育法に定める認証評価機関による評価(認証評価)を受けましたこととなります。

大学基準協会による認証評価は7年毎の3回目となりますが、本学の認証評価では長所が8つ挙げられており、既に3回目の認証評価(教育の質保証中心)を受けた大学の中では、最も長所が多い大学の一つとなりました。認証の有効期間は2028年度(2029年3月31日)までとなります。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/accrreditation/index.html>

③ IR環境の整備

2021年度も引き続き改善・改革を推進し、IRを活用して教育の検証を行いました。

3 教育

(1) メディア授業に関する規程の制定

コロナ禍で蓄積したオンライン授業のノウハウを活かして恒常的にメディア授業を推進していくため、メディア授業に関する規程を制定し、教員に向けたメディア授業に関するガイドラインを策定するとともに、「オンライン／メディア授業事例紹介Webサイト」を公開しました。

今後もコロナ禍に伴うオンライン授業の実践事例の蓄積を契機にメディア授業の特性を踏まえた効果的な活用を推進すると同時に、対面とメディアのベストミックスによるカリキュラム展開を進め、教育のさらなる改善に努めます。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/news/2021/6t5h7p00003f61gz.html>

(2) 意欲ある学生の安定的な確保

① 時代の要請に対応する入試改革

国際日本学部では、2022年度入試(2022年4月入学)から、自己推薦特別入学試験を実施しました。

② 付属校との連携

付属校である明治高等学校と大学が合同で設置している委員会において、生徒の学部選択につながる高大連携事業の見直しに係る検討を行いました。

③ 図書館の充実

本学の教育・研究支援の中核機関であるとともに、

生涯学習時代における社会貢献の拠点として活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、利用者及びサービスを限定しての開館となりましたが、大学生に本の選び方、読み方などを教え、本を読む楽しさを知り、考える力を身につけてもらうことを目的としたイベント「読書人カレッジ」などを開催しました。

そのほか、オンライン学習や研究に役立つ情報を

図書館ホームページ上に掲げました。

※<https://www.meiji.ac.jp/library/index.html>

(4) 国家試験合格状況

試験名	2021年度
司法試験	22名
公認会計士試験	72名
国家公務員総合職	25名

※合格者数は、現役学生、卒業生及び関係者を含みます。

4 研究

学長を機構長とする研究・知財戦略機構は、研究活動を統括し、世界のトップユニバーシティを目指し、世界的水準の研究を推進するため、研究拠点の育成、研究の国際化の推進、研究成果の社会還元を目的としています。

同機構の下に設置されている「研究企画推進本部」及び「研究活用知財本部」を両翼として、様々な研究政策の実施と産官学連携活動の推進により、研究とその成果として生まれた知的財産の一体化を図っています。2021年度の主な研究活動は次のとおりです。

(1) 産学官連携の活動

2021年度は、本学と、株式会社スリーボンド及びスリーボンドファインケミカル株式会社との包括的研究連携等に関する協定を更新しました。この協定に基づき、研究を軸とした多面的な協力を通じて、次世代を担う人材育成を今後も推進します。

また、産学官連携によるアグリビジネス創出を目指し、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)との共催で、「アグリビジネス新技術説明会」を開催しました。

(2) 研究拠点の設置・継続・発展～特別推進研究インスティテュート、附属研究施設等における活動の推進

拠点型研究として、以下の特別推進研究インスティテュート等を筆頭に研究活動を推進しました。また、学際高等研究院を設置し、既存の学部・研究科や専門分野の枠を超えた分野融合型研究拠点の構築を目指しています。

<特別推進研究インスティテュート>

① 先端数理科学インスティテュート(MIMS)～数理科学の国際的研究拠点

※<http://www.mims.meiji.ac.jp/index.html>

② バイオリソース研究国際インスティテュート(MUIIBR)～クローンブタで再生医療技術の開発に貢献

※<http://muiibr.com/>

③ 国際武器移転史研究国際インスティテュート(RIHGAT)～軍縮・軍備管理に関する総合的歴史研究

※<http://www.isc.meiji.ac.jp/~transfer/>

④ 生命機能マテリアル国際インスティテュート(MUIIMLF)～生命機能マテリアルの創製と医学研究の応用

※http://www.isc.meiji.ac.jp/~a_lab/institute/

⑤ 再生可能エネルギー研究国際インスティテュート(MREL)～再生可能エネルギーの創成・貯蔵・有効利用

※<https://www.meiji.ac.jp/research/mrel/index.html>

<附属研究施設>

① 黒耀石研究センター

※<https://www.meiji.ac.jp/cols/index.html>

② 植物工場基盤技術研究センター

※<https://www.meiji.ac.jp/plant/index.html>

③ 地域産学連携研究センター

※<https://www.meiji.ac.jp/cii/index.html>

(3) 研究活動の適正化に向けた研究不正防止体制等の整備

文部科学省のガイドラインに基づき、規程を定め、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施しています。

※<https://www.meiji.ac.jp/osri/guideline/compliance.html>

また、研究不正通報等の通報等受付窓口を設置するとともに、不正防止計画推進部署として駿河台キャンパスに「研究倫理オフィス」を開設しています。

※https://www.meiji.ac.jp/osri/ethics_office/outline.html

加えて、安全保障輸出管理規程を定め、国際交流における教育研究活動を安全かつ円滑に遂行できる体制を整備しています。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/about/export/research/research.html>

(4) 外部研究資金の獲得支援

競争的資金をはじめとする外部研究資金の獲得拡大に向けた申請支援を行っています。また、学内公募型研究費として、研究所研究費、新領域創成型研究・若手研究、国際共同研究プロジェクト支援事業等があり、新たな外部研究資金の獲得に向けて研究活動の推進・活性化を図っています。加えて、2021年度は新型コロナウイルス感染症対策や with コロナ, after コロナにおける社会の在り方の模索・構築に貢献する研究を支援するため、「特別推進研究」を新設し、4件を採択しました。

※https://www.meiji.ac.jp/research/promote/neodomain_youth/2021.html

(5) 「科学研究費助成事業」の採択

2021年度の採択件数は新規と継続分をあわせて343件、採択金額は7億2371万円となりました。分野別ランキング「中区分別採択件数上位10機関」では、「03. 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野」において7位(私立大学では2位)にランクインしました。

(6) 論文のオープンアクセス化の推進

本学において創生された研究成果を広く学内外に公開し、そのアクセスを恒久的に保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与し、社会の持続的発展に貢献することを目的として、オープンアクセス方針を定めています。2021年度も、本方針に基づき、学内紀要のリポジトリへの包括的・一括的登録を推進し、論文のオープンアクセス化を進めました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/institution/6t5h7p0000256xtv.html>

5 社会連携・社会貢献

(1) 社会貢献を進めるために～社会連携機構

本学における教育研究活動を通じた地域連携活動の支援、生涯学習機会の提供等を推進することによって、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することを目的として設置されている機関が社会連携機構です。社会連携機構は、生涯教育の充実を図るリバティアアカデミー及び地域連携を推進する地域連携推進センターから構成されています。

① 生涯学習の拠点～リバティアアカデミーの展開

リバティアアカデミーは、公開講座を中心とした生涯教育及び資格取得等職業能力の再開発・向上を図るための教育活動の役割を担っています。これまでも「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして産業社会や地域社会に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通して「開かれた大学」としての姿を追求してきました。

2021年度は、リアルタイム配信型(Zoom)、オンデマンド型での講座が実施され、教養・文化、ビジネス、資格・実務、語学、オープン講座、履修証明プログラム等、年間約280講座を開講し、約7,000名が受講

しました。

※<https://academy.meiji.jp/>

② 地域連携推進センターの展開

地域連携推進センターは、本学が国・地方公共団体、産業界、地域住民等からの幅広い要請に応え、地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図ることにより、本学における教育研究の発展と地域社会への貢献に寄与することを目的としています。

明治大学と成田市の連携講座「成田社会人大学」は25年目となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年とは異なる縮小開校となりましたが、多様なテーマについてオンラインでの学習機会を提供しました。

また、学生による地域振興プロジェクトとして「鳥取県の魅力発信ライター」を実施し、学生によるZoom取材や「MEIJI NOW」への鳥取コラム投稿を通じて広く発信しました。

※https://www.meiji.ac.jp/koho/meidaikouhou/202201/p14_01.html

(2) 博物館の充実

本学の教育・研究成果を社会に還元する学内共同

利用機関として、学内外の諸機関等と連携した展覧会、公開講座等多彩な教育・普及活動を展開しています。2021 年度も明治大学博物館による収集・保管、調査・研究、教育・普及の成果をデジタル化し、継続的にコンテンツを増補しながら情報配信を行っていく、現在進行形のサイト「ONLINEミュージアム」を公開し、また、コロナ禍においても家で楽しみながら学べるコンテンツを提供する取り組みである「おうちミュージアム」に参加しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/museum/index.html>

(3) グローバル連携の推進

本学は 2010 年度から国連アカデミック・インパクト (UNAI)に参加しています。また、持続可能な開発目

標 (SDGs) の達成に向けて、多角的な取り組みを行っています。達成に向けた独自の取り組みを広く伝えるため、新たに特設 Web サイトを開設し、学生や教職員の目標達成に寄与する教育・研究・社会貢献等の取り組みやプログラムについて紹介しています。

※<https://www.meiji-sdgs.jp/>

(4) 明治大学子どものこころクリニック

「心理臨床センター」の精神科医療部門として開設した「明治大学子どものこころクリニック」では、学生を臨床心理学の高度専門職業人として養成するとともに、児童思春期を対象とした精神科医療の実施を通じ、地域貢献を図りました。

※<https://www.meiji.ac.jp/mhc/index.html>

6 国際連携

2021 年度も、世界に羽ばたき、社会と世界をリードする人材教育の実現を目指して、国際化に関する取り組みを積極的に推進しました。

(1) 「スーパーグローバル大学創成支援」事業 (SGU)

本学の取り組み「世界へ！ MEIJI8000 ー学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成ー」が、2014年に文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプB「グローバル化牽引型」に採択されました。

コロナ禍により現地への留学や外国人留学生の受け入れなど、困難な状況が生じていますが、オンラインの活用などにより、「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓くグローバル人材 (卒業生毎年8,000人)」を育成し、世界に送り出していくべく、積極的な事業を推進しました。

(2) 「大学の国際化促進フォーラム」事業

本学は、文部科学省が発足させた「大学の国際化促進フォーラム」のプロジェクトとして「海外拠点×オンライン×実留学のグローバルシナジー・モデルの構築」を企画提案し、その幹事校に選定されました。

海外拠点・オンライン・実留学の組み合わせモデルの構築を目的に、大学間の横連携・展開によるオンライン交流プログラムの拡充や海外拠点の活用・運用方法の共有および強化、学生の適切な留学先選びの支援を目指します。

※<https://www.meiji.ac.jp/cip/info/2021/6t5h7p00003cb9xd.html>

(3) 戦略的提携校政策～協定校・協定機関の拡充～

海外の大学等との協力・協定については、2021 年度も積極的に新たな協定を締結し、2022 年 3 月末時点で 57 カ国・地域、365 大学と協定を締結しており、うち 46 カ国・地域、269 大学と学生交流のある協定を締結しています。

(4) 外国人留学生の受入れ・学生の海外送出し強化

2021 年度の外国人留学生数は 2,113 名 (学部: 1,116 名, 大学院: 457 名, 専門職大学院: 176 名, 短期プログラム: 364 名), 海外派遣学生数は 611 名 (協定留学: 127 名, 認定留学: 1 名, 短期留学: 212 名, その他 271 名) となりました。(2022 年 3 月現在)

また、留学生の明治大学への疑問や不安を解消し、留学に対する意識を高めることを目的とした、「留学生のためのオンラインフェスタ」を 7 月に開催し、先輩留学生による大学紹介や体験授業等を実施し、約 170 人の留学生が参加しました。

さらに優秀な海外からの留学生を獲得するため、入口から出口までの一貫した支援政策に基づき、Web 出願、戦略的広報のための Web ページの活用、日本語教育に係るカリキュラムの整備、経済的支援策、就職支援プログラムなどを展開しました。

海外留学を目指している学生には、対面またはオンラインによる留学相談 (カウンセリング)、留学説明会、

英語学習プログラムを実施したほか、2021年7月からは渡航を伴う留学を再開し、コロナ禍における留学対応とコロナ後を見据えた留学促進活動を実施しました。

(5) 教員のモビリティと教育の質向上

英語で授業を行う教員向けのオンライン研修として、

カリフォルニア大学アーバイン校の講師による「授業英語化のためのワークショップ」を実施しました。参加者はその教授法をワークショップ形式で学び、それぞれの講義に活かしています。

7 学生支援

(1) 奨学金の充実

将来の有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、奨学金制度に基づき、給費奨学金・貸費奨学金等各種奨学事業を実施しました。

2021年度も、入学前予約型給費奨学金「おゝ明治奨学金」を募集しました。本奨学金は、本学へ入学を希望する、学業優秀でありながらも、経済的に困窮している受験生に、入学時及び入学後の経済支援を行うことを目的としています。

(2) 学生参加型プログラムへの支援

4 キャンパスに設置されているボランティアセンター（VC）は、本学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び

自主性を涵養して、社会に有用な人材を育成することを目的としています。

2021年度は、「復興の道を歩んできた私たちがコロナ禍の大学生に伝えたいこと」と題したオンライン講演会などを開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>

(3) 学生相談室の活動

相談内容の約3分の2が精神衛生に関わるものであるとともに、SNSのトラブルに関する相談など社会情勢の変化を反映して相談内容も多様化・複雑化していることから、学生相談機能の拡充を図っています。

また、憩いの場や交流の場の提供・心身の健康増進などを目的として各種行事を開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html>

(4) 観る人に感動を～スポーツ関係

各部の活躍

ラグビー部	第58回全国大学ラグビーフットボール選手権大会準優勝
硬式野球部	丸山和郁選手(商4)が東京ヤクルトスワローズから2位指名
サッカー部	4名がJリーグ各チームに加入内定
競走部	第53回全日本大学駅伝対校選手権大会7位(シード権獲得)
スケート部	全日本フィギュアスケート選手権大会 樋口新葉選手(商3)が女子シングル総合2位 北京オリンピック冬季競技大会フィギュアスケート団体にて銅メダル獲得
拳法部	第66回全日本学生拳法選手権大会優勝(16回目)
ボードセーリング部	全日本学生ボードセーリング選手権大会(インカレ)個人戦 三浦圭選手(法1)が優勝
バドミントン部	第72回全日本学生バドミントン選手権大会男子団体優勝
自転車部	第61回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 渡部春雅選手(政経1)が3種目で1位 第56回全日本学生自転車競技トラック新人戦・東日本大会男子パーシュート 片岡遼真選手(法1), 男子ケイリン 野中龍之介選手(経営2)が優勝
少林寺拳法部	第55回少林寺拳法全日本学生大会総合優勝
射撃部	全日本学生スポーツ射撃選手権大会男女総合優勝(師尾記念賞)
卓球部	第25回アジア選手権大会宇田幸矢選手(商2), 戸上隼輔選手(政経2)ペアが男子ダブルス優勝(日本人ペアの優勝は45年ぶり)

	世界卓球 2021 宇田幸矢選手(商 2), 戸上隼輔選手(政経 2)ペアが男子ダブルス初出場銅メダル獲得
フェンシング部	全日本フェンシング選手権大会(インカレ)女子エペ個人戦 稲山友梨選手(経営 1)が優勝

(5) 就職・キャリア形成をバックアップ

本学の学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養して主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的としています。

就職キャリアセンターでは、新型コロナウイルス感染

症拡大防止の観点から、2021 年度も前年度と同様にオンラインを中心に支援を行い、一部対面での個別相談も導入しました。

また、就職キャリア支援センターの取り組みを定期的に伝えるべく「就キャリアだより」のホームページへの掲載を開始しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html>

8 入学試験関連

(1) 2022 年度入学試験志願状況

一般選抜の志願者数は、学部別入学試験 56,742 人、全学部統一入学試験 19,586 人及び大学入学共通テスト利用入学試験 26,098 人の合計 102,426 人となりました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/index.html>

(2) 2021 年度オープンキャンパス@home

受験生等に向けて自宅にいながらも明治大学の授業やキャンパス、学生生活を体感できる「オープンキャンパス@home」を公開し、9 万件以上のアクセスがありました。また、8 月に 4 日間、Zoom を活用した個別相談会を事前予約制で開催し、約 700 件の相談申し込みを受け付けました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampusathome/>

9 卒業・修了の状況

本学は、140 年の歴史と伝統の中で、創立以来 58 万人を超える卒業生を輩出してきました。

2021 年度は、各学部の卒業生 7,028 名(うち 9 月卒業 299 名)、大学院の修了生は博士前期課程 634

名(うち 9 月卒業 7 名)、博士後期課程 36 名(うち 9 月卒業 1 名)、専門職学位課程 250 名(うち 9 月卒業 72 名)、高等学校・中学校の卒業生 426 名(高等学校 258 名、中学校 168 名)となりました。

10 教育研究環境の整備

本学の、より一層の発展に寄与するため、教育研究環境の整備等を行いました。

(1) 駿河台キャンパスに新たな学生交流スペースを設置

都市型のビルキャンパスである駿河台キャンパスが持つ学生交流スペースが少ないという課題と、コロナ禍における学生同士のコミュニケーション機会の減少という課題を解消すべく、駿河台キャンパス・リバティタワー2階をリニューアルし、3つの学生交流スペース「ラウンジ ZERO」「ラウンジパープル」「ラウンジアイビー」として運用を開始しました。「ラウンジ ZERO」にはグループ席や個人ブースを設け、「ラウンジパープル」

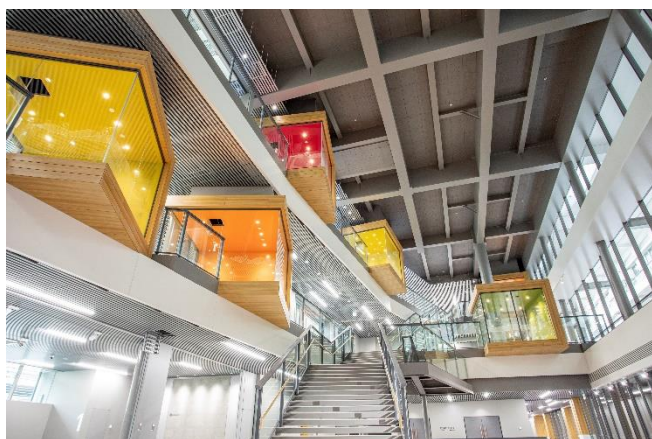
には大型電子黒板を設置し、授業やゼミ、サークルなどでも利用が可能となるほか、「ラウンジアイビー」にはビッグテーブルやソファ席を設置しました。



※<https://www.meiji.ac.jp/koho/news/2021/6t5h7p00003f3i1k.html>

(2) 和泉キャンパス新教育棟「和泉ラーニングスクエア」竣工

和泉キャンパスにおける教室数の不足や教育施設の老朽化、さらには社会の激しい変化に対応し、総合的な知の基盤である「教養教育」を展開する『場』の創出に向け、「和泉ラーニングスクエア」が竣工しました。「和泉ラーニングスクエア」は、既存の第二校舎・第三校舎の建て替え事業として建設され、気軽に学習支援やアドバイスをもらえるラーニングサポートベース、学生同士が協働するグループボックス、机も椅子も取りはらったカイドン教室、オープンなラウンジスペース内にカウンターやベンチが設置されたプレゼンテーションラウンジ、風と緑の憩いのスペースであるグリーンテラス等が設置されています。



※https://www.meiji.ac.jp/140th/izumi_ls/

(3) 生田キャンパス第二中央校舎(仮称)建設計画の推進

現在の生田図書館の北側隣接地に新たに生田キャンパス第二中央校舎(仮称)を建設します。第一校舎1号館、第二校舎2号館、第二校舎5号館の教

室と、図書館、ラーニングコモンズ(総合的な自主学習のための環境)の3つの機能を複合し、現代の社会的ニーズに対応したアクティブラーニングの設備はもとより、これからの教育を見据えた生田キャンパスのハブとなる共用教育棟となります。さらに、キャンパス中心部の外構整備も併せて行い、次世代のキャンパス環境と景観を整備します。今後は、2023年4月に着工し、2025年度中に利用開始を予定しています。



※https://www.meiji.ac.jp/koho/meidaikouhou/202202/p01_02.html

(4) 競走部・サッカー部合宿所建設計画の推進

本学八幡山用地において、競走部及びサッカー部の合宿所建設計画に係る基本構想が承認され、2023年春の利用開始に向けて計画の推進を行いました。

※https://www.meiji.ac.jp/koho/meidaikouhou/202201/p22_01.html

引き続き、教学の要望、既存校舎の劣化度合、財政的支出のバランス、外的環境等を総合的に勘案しながら、教育施設、研究施設、学生環境の整備を推進します。あわせて、安全かつ高度な教育研究環境を守るため、既存施設の修繕、改修を適切に実施していきます。

11 学校法人の管理・運営

(1) 環境保全に配慮した大学の運営

2021年度も、環境保全にかかわる教育活動の一環として、「明治大学環境展」をオンラインにて実施しました。「明治大学環境展」では、環境関連ゼミナール等の研究成果発表、環境に配慮された施設設備の紹介、環境に関連する明治大学図書館蔵書リストなど、私たちを取り巻く環境問題や本学の環境保全への取り組みについてわかりやすく、興味を惹けるコンテンツを公開しました。また、エネルギー使用量等の環境保全活

動について、本学ホームページに掲載しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/academeprofile/activity/environmental/6t5h7p00001q7gth.html>

(2) 防火・防災・危機管理体制

① 防災対策

大規模災害の発生等を想定し、駿河台・和泉・生田・中野の各キャンパス及び明治高等学校・中学校において防災訓練等を実施しました。

② 危機管理広報の対応

大学役員・役職者や事務管理職らを対象に、大学に関わる事件・事故や不祥事の発生時に、的確な広報対応が取れるよう、日頃からの意識向上を目的とした「危機管理広報セミナー」をオンラインにて開催しました。「今、学校法人に求められる危機管理」をテーマに、外部講師を招いて具体的な事例説明を受け、危機管理事案発生時における学内の広報体制を確認する機会となりました。

(3) 附属校・系列校政策

法人の健全な運営及び教育研究活動の永続的な発展のためには、学生の「数」と「質」の確保が不可欠です。学生の「数」と「質」の確保に向けた方策のひとつとして附属校・系列校政策が重要である、との認識を共有し、附属校・系列校強化推進について具体的に検討を行ってきました。推進にあたっては、学校種、立地、規模、設置形態等の課題について慎重に見極めながら、あらゆる可能性を視野に入れた検討を実施しました。

① 学校法人日本学園（東京都世田谷区）と系列校連携に関する協定書を締結

3月に学校法人日本学園と系列校連携に関する協定書を締結し、2026年4月より、学校法人日本学園が設置する「日本学園中学・高等学校」を「明治大学附属世田谷中学・高等学校」と名称を変更の上、

男女共学校とし、本学の系列校として開設することとなりました。なお、本学への附属高等学校入学試験による入学者の受け入れは2029年度からとなります。

本学では42年ぶりとなる系列校の設置となり、2031年に創立150周年を迎えるあたり、新たに歴史が刻まれます。



※<https://www.meiji.ac.jp/koho/press/6t5h7p00003feelz.html>

(4) 新型コロナウイルス感染症ワクチン大学拠点接種の実施

本学を会場とした新型コロナウイルス感染症ワクチンの大学拠点接種を9月から10月にかけて実施しました。接種人数は、学部生7,648人、大学院・専門職大学院生511人、教職員222人に加え、附属校の生徒、学生・教職員の家族、大学常駐業者など合わせて1万940人となりました。第3回目の大学拠点接種は、2022年5月9日から実施となります。

12 附属明治高等学校・中学校

(1) 国際教育の推進及び特色ある教育の実現

① 英語力強化施策・グローバル化推進

ア 英語教材の「多読」を継続して促進しており、蔵書は7,000冊を突破しました。

イ 英語による「スピーチコンテスト」「プレゼンテーションコンテスト」を開催し、受賞者は校内で英語研修を受講しました。

ウ 夏季英語研修として校内で模擬国連を附属3校合同で開催しました。

エ 春季英語研修として中1～高2まで全員が参加できるコースを用意し、多数参加しました。

オ 台湾の左営高校とオンライン交流を4回実施しました。

② 高大連携の推進

ア 高大連携講座

イ プレカレッジプログラム(対面及びオンライン)

ウ サマーセミナー、スプリングセミナー、ウィンターセミナー(対面及びオンライン)

③ キャリアクエスト講座

本校OB/OGを招いて、裁判傍聴会(11/1)、建築実習(10/23・10/30)を実施しました。

(2) 教育研究環境の充実

本校の保守整備計画策定に基づき、補修工事を行いました。また、ICT教育環境の推進に向けて高校21教室にAV設備の更新を実施しました。

(3) 地域連携事業の展開

本校がある調布市とは、相互協力検討会での協議を通して、コロナ禍での生徒の活動を検討しています。

(4) 安全安心な学校管理

コロナ禍において対面授業を実施するため、生徒の「行動基準」を定め、学校医に相談しながらあらゆる角度から感染症対策を施し、安全安心な学校生活を送れるように環境を整備しました。